

# Proton Pump Inhibitors Increase Incidence of Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug-Induced Small Bowel Injury : A Randomized, Placebo-Controlled Trial.

鷺尾, 恵万

<https://hdl.handle.net/2324/1654761>

---

出版情報 : 九州大学, 2015, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



氏 名：鷺尾 恵万

論 文 名：Proton Pump Inhibitors Increase Incidence of Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug-Induced Small Bowel Injury: A Randomized, Placebo-Controlled Trial.

(NSAID 起因性小腸粘膜傷害に対するプロトンポンプ阻害剤の影響 - 無作為盲検化比較試験 - )

区 分：甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

**背景と目的：**非選択的非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)とプロトンポンプ阻害剤(PPI)を併用投与した患者では、60-80%と高率に小腸粘膜傷害が発生することが報告されている。PPI が NSAID 小腸粘膜傷害を増悪させるかを検討する目的で、我々は無作為盲検化比較試験を行った。

**方法：**57 人の健常人を、NSAID であるセレコキシブ(400 mg/日)とプラセボを服薬する COX-2 SI 群と、セレコキシブと PPI のラベプラゾール(20mg/日)を服薬する COX-2 SI+PPI 群の 2 群に無作為に分けた。本研究は 2012 年 10 月から 2013 年 9 月に日本の医療機関で被験者を集積し実施した。被験者全員に対して開始時と 2 週間の服薬終了後に計 2 回カプセル内視鏡検査を施行し、小腸粘膜傷害の陽性率および小腸粘膜傷害(潰瘍、びらん)の発生個数を 2 群間で比較した。主評価項目は 2 回目のカプセル内視鏡検査での小腸粘膜傷害陽性率とした。

**結果：**小腸粘膜傷害の陽性率は、COX-2 SI 群の 30 例中 5 例(16.7%)に対して COX-2 SI +PPI 群で 27 例中 12 例(44.4%)と有意に高率であり( $p=0.04$ )、相対危険度は 2.67(95%信頼区間, 1.08-6.58)であった。びらん数は COX-2 SI+PPI 群で有意に多かったが( $p=0.02$ )、潰瘍数は 2 群間で差を認めなかった。空腸での小腸粘膜傷害陽性率は COX-2 SI 群(0%)に対して COX-2 SI+PPI 群(26%)で有意に高かったが( $p=0.003$ )、回腸では有意差はなかった。

**結論：**今回の無作為盲検化試験で、PPI は NSAID 短期投与の小腸粘膜傷害を増悪させる可能性が示唆された。(UMIN000008883)